



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

アジア太平洋無形文化遺産研究センター
開設記念シンポジウム

危機に瀕する無形文化遺産の 復興と継承を考える

日 時

2011年10月4日（火） 13:30～16:00

場 所

リーガロイヤルホテル堺4階 ロイヤルホール

主 催

文化庁、（独）国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市

協 力

（独）日本芸術文化振興会国立文楽劇場

後 援

外務省、日本ユネスコ国内委員会、大阪府

プログラム

13:00	開場
13:30	開会 主催者ご挨拶 ◇近藤誠一 文化庁長官 ◇竹山修身 堺市長 ◇藤井知昭 アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長
13:40	芸能公演（早池峰岳神楽保存会） ◇早池峰神楽：三番叟（さんばそう）・権現舞（ごんげんまい）
14:10	休憩（20分）
14:30	パネルディスカッション ◇テーマ：危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える ◇コーディネーター： 藤井知昭 アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長 ◇パネリスト： 山路興造 民俗学者、民俗芸能学会代表理事、京都嵯峨芸術大学客員教授 サムアン・サム カンボジア王国文化芸術省次官、パンニャシャストラ大学教授 ナタン・イトンガ キリバス共和国自治省博物館・文化センター文化担当官
16:00	閉会

岩手県花巻市大迫町の大償（おおつぐない）・岳（たけ）の2地区に伝承される神楽で、現在では早池峰（はやちね）神社の8月1日の祭礼などに演じられる。

神楽は、「三番叟」を含む6曲からなる式舞の後に、神舞、荒舞、番楽舞、女舞、狂言が演じられ、最後に権現様と呼ばれる獅子頭による「権現舞」が舞われている。

早池峰神楽は、室町時代に能が大成する以前の姿をうかがわせるなど特色がある。

・2009年 ユネスコ無形文化遺産保護条約の「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載

◇三番叟：式舞の三番目に舞われる演目で、蛭子命（ひるこのみこと）が世の喜怒哀楽、艱難辛苦の様を舞ったものと言われている。黒面の翁が軽やかに登場する三番叟はテンポが速く、曲芸的な動きをするため、観客には人気の高い演目である。

◇権現舞：神楽の最後に必ず舞われる。あらゆる災いを退散、調伏させ人々の安泰を祈禱する舞である。権現とは獅子で、神の化身である。この神の化身である権現様を奉じて、門ごとに権現舞を行い、また神楽を演じたりするのである。

早池峰神楽



◇・◇ コーディネーター ◇・◇

藤井知昭

アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長、国立民族学博物館名誉教授

この度のシンポジウムでは、日本、アジア、太平洋から無形文化遺産の専門家を1名ずつお招きし、「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える」をテーマにパネルディスカッションを行う。東日本大震災をはじめ、国内外において無形文化遺産の存続を脅かす様々な事象に直面する中、無形文化遺産の保護と復興のために、日本や地域社会がどのような役割を果たしていくべきかを問題提起する。

◇・◇ パネリスト ◇・◇

山路興造

民俗学者、芸能史研究者、民俗芸能学会代表理事、藝能史研究会代表委員、京都嵯峨芸術大学客員教授

お話の内容：無形文化遺産を公開する祭りの場は、共同体の次世代を担う若者たちの教育の場であり、精神的結束を確かめ合う場であった。1960年代の高度経済成長期を通じて、この地域共同体は急速に崩壊し始め、そのあり方が変化してきた。しかし、この度震災の被害を受けた東北地方の一部では、この地域共同体が生きていた。現代に生きる我々は、この様々な社会の変化に、根本的な対応策を考える時期に来ている。

サムアン・サム

民族音楽学者、作曲家、カンボジア王国文化芸術省次官、カンボジア・パンニャシャストラ大学教授

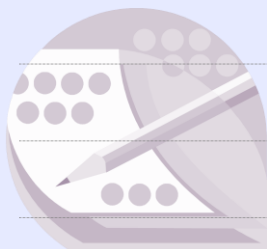
お話の内容：1975～79年の約3年9カ月、カンボジアは、ポルポト率いる過激派による共産党クメール・ルージュによりこの世の地獄に陥った。国民は体系的に過酷な労働、飢餓、病気にさせられ、教師や医者や芸術家は拷問され、100万以上の命が彼らの手により失われた。彼らの政策は、クメール文化を根こそぎ壊し、政治とは無関係の芸術家は犠牲となり、ほとんどのクメール芸能は抑圧された。クメール・ルージュ時代の無形文化遺産、特に宮廷舞踊や伝統音楽の実演家たちは、この政治的変化に反応した。

ナタン・イトンガ

芸術家、芸術教育者、キリバス共和国自治省博物館・文化センター文化担当官

お話の内容：温暖化、海面の上昇などの環境変化により、小さな島国であるキリバスの人々や動植物は、様々な危機に直面している。キリバス政府は、国の優先的な発展計画として、①環境変化を引き起こす要素を減らす、②環境の変化に適応していく、③海拔の高い地域への移動、をあげている。特に移住とキリバス独特の文化や無形文化遺産の保護の両立は多くの課題を抱えている。伝統的な”MWANEABA”という地域の集い場は、このような課題の中で無形の文化を保護する模範の一つと言えるだろう。

メモ





シンポジウム会場にて、下記の展示を同時に開催いたします。

- ◇ ユネスコ無形文化遺産 人形浄瑠璃文楽（文楽人形・パネル展示など）
- ◇ 国選択・大阪府指定無形民俗文化財 上神谷のこおどり（衣装・パネル展示など）
- ◇ ユネスコ無形文化遺産（パネル展示）
- ◇ ユネスコ世界文化遺産をめざす百舌鳥・古市古墳群（パネル展示）

人形浄瑠璃文楽



三味線音楽の義太夫節（ぎだゆうぶし）に合わせて人形操作を行う音楽劇である。18世紀に大成した。義太夫節を語る太夫、その伴奏をする三味線方は、登場人物の性格や喜怒哀楽の心情を語り分ける。また、1体の人形を3人で操作する工夫により、人形の写実的な動きが可能となり、浄瑠璃と一体となって舞台上で高い芸術性を示す。

・2008年 ユネスコ無形文化遺産保護条約の「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載

上神谷のこおどり

上神谷（にわだに）のこおどりは堺市南区鉢ヶ峯寺に伝承されるもので、もとは雨乞踊として踊られたともいうが、現在は片葺の桜井神社の秋祭のおりに行なわれる。この踊の拍子にはデンツ拍子、四ツ拍子などがあり、音楽的に特色あるものである。さらに、踊の終了後、鬼神の背負うヒメコと呼ぶ神籬（ひもろぎ）を奪いとり、門口にさして魔除けにするとという民俗がのこっている。

・1972年に国選択、1993年に大阪府指定無形民俗文化財

